



なつのも



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

第134号 (R2. 11. 2)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

勝つことばかり知りて 負けることを 知らざれば 害その身に至る

校長 牧野 光 洋

この言葉は、戦国時代の覇者、徳川家康の家訓の一部です。戦乱を生き残り、日本を統一した家康が負けを味わうことの大切さを説いています。ご存じの通り、家康は数多い戦乱のうち、その初期に大敗を喫しています。命を落としそうになった戦もあったようです。

その負けた経験が用心深い戦略や、失敗してもめげずに粘り強く事を進める姿勢を養ったのでしょう。勝利が続くと、負けの恐ろしさを忘れ、戦略に緻密さが欠けてきます。成功が続くと失敗に対する備えがおろそかになりがちです。結果は、立ち直ることができないような、大敗や大失敗で幕を閉じることになります。そうならないように「人の人生は、重荷を負うて遠き道に行くが如し、急ぐべからず（中略）勝つ事ばかり知りて負けることを知らざれば、害その身に至る〜」（家康公家訓）と驕りを戒めています。日常生活から言えば、「勝つこと」は「思い通りになる」ことであり、「負けること」は「思い通りにならないこと」です。私たちの人生は、「思い通りにならないこと」ばかり。その初め、生まれる時に親を選べた者はありません。男女の性別も、家庭の環境も。年をとることも、病にかかるとも、やがて死を迎えることも、みんな自分の思い通りにはなりません。思い通りにならない筆頭は、この生老病死。これは誰一人として例外がありません。総てのものは、私たちの望みとは関係なく動いています。それなのに、「どうして自分の思い通りにならないのだろう？」と人は悩みます。苦悩の根本は、「思い通りにならないこと」を当たり前だと思えないことにあります。ですから、「世の中は、思い通りにならないことが当たり前なんだ」と肝に銘じておかねばなりません。更に、「めげずに努力精進」していく明るさを持ち続けて人生としたいものです。よく子供が机にぶつかって泣いた時に、「悪い机だね」などと教えている方を見受けます。小さな子供を甘やかし、常に子供に勝ちを出すのは「何でも思い通りになる」と子供に錯覚させてしまいます。最も子供を苦しませる、原因を植え付けてしまっていると言えるでしょう。子供が大自然に接することがとても大切だという理由の一つは、この錯覚



をなくし、自分の考えがいかにか稚拙で取るに足らないものであるかを体で感じさせることが出来るからです。思い通りにならないこの世の中を、謙虚に受け止め、如何に助け合い、どのようにしたら明るく生きていけるか？これが私たちの日々の課題と感じます。

先月の24日（土）に開校10周年記念式典がコロナ渦の中、全児童代表として6年生が参列し、本校を常に支えていただいている地域の皆様、歴代校長先生、練馬区及び練馬区教育委員会、周年実行委員の皆様をお迎えして粛々と執り行われました。全児童に、この学校の誕生日を祝う雰囲気が漂い始め、自分の学校を誇りに感じながら、児童集会、記念植樹、学校装飾、そして全児童で取り組み作り上げた夏の雲小学校10周年記念の歌、「なつくも一Dream」も見事でした。この周年記念式典を迎えるにあたり、開校当時の卒業生の保護者の皆様、地域の皆様も加わり全面的なご支援の賜物として迎えることができましたこと、心より感謝申し上げます。前述の垂戒のごとく、いろいろと振り返ることで、一つの節目を越すことができました。式典の中で児童が宣言していました。「練馬区、いや日本一の素晴らしい学校に築いていくことを誓います。」このことを次の20周年への礎として精進してまいりたいと思います。

